

弘前大学学生生活調査(令和3年2月)の結果について

本アンケートは、令和2年6月、及び9月に行ったアンケートに基づき、その後の経済状況の変化の有無にポイントを絞って調査し、引き続き本学の支援のあり方の参考とすることを目的として実施した。

□調査の概要

- 調査期間：令和3年2月24日(水)～3月7日(日)
- 調査方法：ウェブ入力方式(全学生に対しメールにて協力依頼)
- 有効回答者数：1,395名(回答率:20.6%)

1. 回答率等

全学生 6,762名(令和3年2月1日現在)の約1/5、1,395名が回答している。回答者における学部生・大学院生の割合、学部等ごとの回答率、学年ごとの回答率は下記のとおりである。

学部3年生の比率が若干高くなったのに対し、学部4年生、及び医学科6年生の割合が低くなっているのは修了年次のためと思われ、その他はいずれもこれまで2回の調査と概ね同じ比率であった。

・区分

| 区分 | 令和2年6月 | 令和2年9月 | 令和3年2月 |
|------|--------|--------|--------|
| 学部生 | 93% | 93% | 92% |
| 大学院生 | 7% | 7% | 8% |

・所属学部・研究科

| 学部・研究科等 | 令和2年6月 | 令和2年9月 | 令和3年2月 |
|---------------------------|--------|--------|--------|
| 人文社会科(人文)学部・研究科 | 22.2% | 22.9% | 20.5% |
| 教育学部・研究科 | 11.6% | 10.6% | 9.9% |
| 医学部医学科・医学研究科 | 11.4% | 10.0% | 9.3% |
| 医学部保健学科・保健学研究科・医学部心理支援科学科 | 19.0% | 18.0% | 23.6% |
| 理工学部・理工学研究科 | 20.8% | 22.8% | 20.1% |
| 農学生命科学部・農学生命科学研究科 | 14.2% | 14.9% | 15.7% |
| 地域社会研究科 | 0.1% | 0.1% | 0.2% |
| 地域共創科学研究科 | 0.5% | 0.7% | 0.7% |

・学年

| 学年 | 令和2年6月 | 令和2年9月 | 令和3年2月 |
|---------|--------|--------|--------|
| 1年 | 38% | 36% | 34.9% |
| 2年 | 26% | 28% | 26.7% |
| 3年 | 18% | 19% | 24.9% |
| 4年 | 15% | 14% | 11.3% |
| (医・医)5年 | 2% | 1% | 2.0% |
| (医・医)6年 | 1% | 1% | 0.2% |

2. 新型コロナウイルスによる経済状況への影響

今回の調査では回答項目に「改善した」、「やや改善した」を設け、令和2年9月時点と比較して、よい方向への変化があったかどうかについても確認した。

以下のとおり、「改善した」が1%、「やや改善した」が7%で、回復傾向にあるものが合計で8%であるのに対し、「やや苦しい」が16%、「かなり苦しい」が3%で、それぞれ前回よりも数字は低くなっているものの、合計で19%と、依然として苦しい経済状況であることがうかがえる。

自由記述137件においては、100円夕食等の食支援や学生教材費支援金等が経済状況の改善に役立ち、今後も継続してほしいとの声が40件近くあったことから、本学の支援策は効果的であったといえる。

また、保護者等からの支援額は、令和2年9月時点と比較して「減少した」とするものが9%あり、就労状況の変化が察せられるが、一方で「変わらない」としたものが85%を占め、決して楽ではない経済状況にありながらも学費支弁には影響を及ぼさないようにとの保護者等の配慮がうかがえる。

| 区 分 | 令和2年6月 | 令和2年9月 | 令和3年2月 |
|-------------------|--------|--------|--------|
| 改善した | — | — | 1% |
| やや改善した | — | — | 7% |
| あまり変わらない | 58% | 61% | 73% |
| やや苦しい(やや苦しくなった) | 35% | 31% | 16% |
| かなり苦しい(かなり苦しくなった) | 7% | 8% | 3% |

3. アルバイトにおける新型コロナウイルスの影響

アルバイトをしている者における新型コロナウイルスの影響の推移は以下のとおりである。

「大いにある」と「少しある」を合計すると60%余りとなり、前回の70%、前々回の84%と比べると、減ってきてはいるものの、依然として影響を及ぼしていると言える。

また、アルバイトをしていない者について、その理由を尋ねる設問では、「新型コロナウイルスの影響で辞めた」が14%、「新型コロナウイルスの影響で辞めさせられ、次のアルバイトをしたいが働ける場所がない」と答えたものが7%あり、アルバイトの職種で多くの割合を占める飲食系のアルバイトの衰退が影響しているものと推測される。

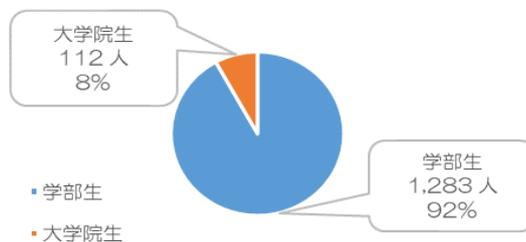
| 区 分 | 令和2年6月 | 令和2年9月 | 令和3年2月 |
|----------|--------|--------|--------|
| 大いにある | 48% | 27% | 22% |
| 少しある | 36% | 43% | 40% |
| とくに影響はない | 16% | 30% | 38% |

弘前大学学生生活調査（令和3年2月）の結果について

■ あなた自身の所属などについてお尋ねします。

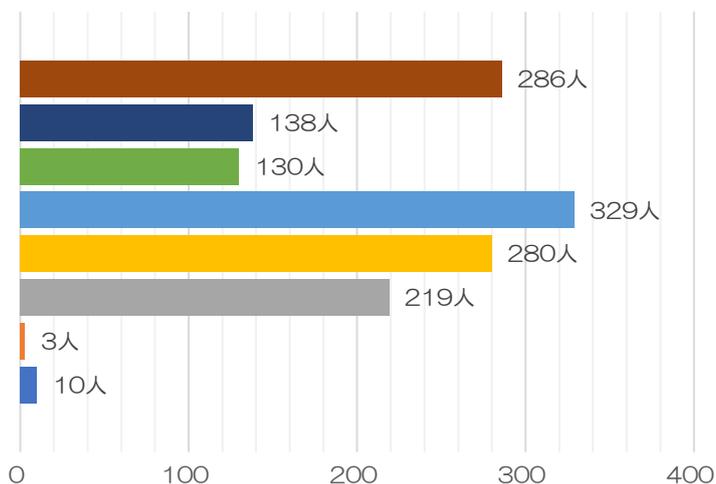
1. あなたの区分を教えてください。

| | |
|-------|---------|
| 学部生 | 1,283 人 |
| 大学院生 | 112 人 |
| <hr/> | |
| | 1,395 人 |



2. あなたの所属学部・研究科を教えてください。

- 人文社会科（人文）学部・人文社会科学研究科
- 教育学部・教育学研究科
- 医学部医学科・医学研究科
- 医学部保健学科・保健学研究科・医学部心理支援科学科
- 理工学部・理工学研究科
- 農学生命科学部・農学生命科学研究科
- 地域社会研究科
- 地域共創科学研究科

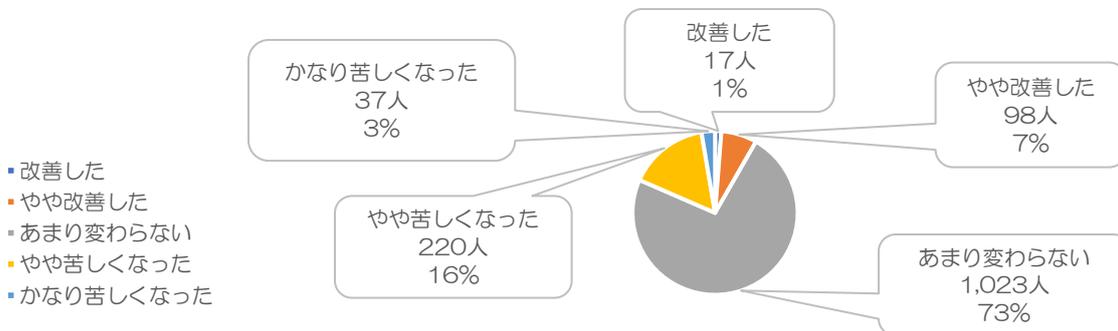


3. あなたの学年を教えてください。

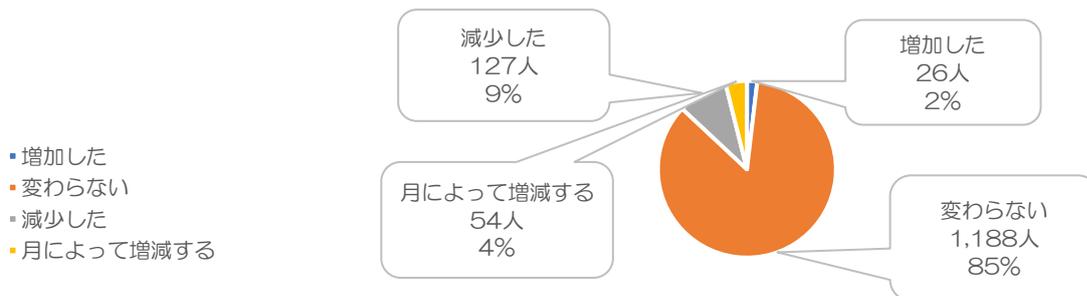


■ あなたやあなたの保護者（または学費支弁者）の経済状況の変化についてお尋ねします。

4. 新型コロナウイルスの感染拡大によるあなたの経済状況への変化について、令和2年9月時点と比較して変わったかどうか教えてください。

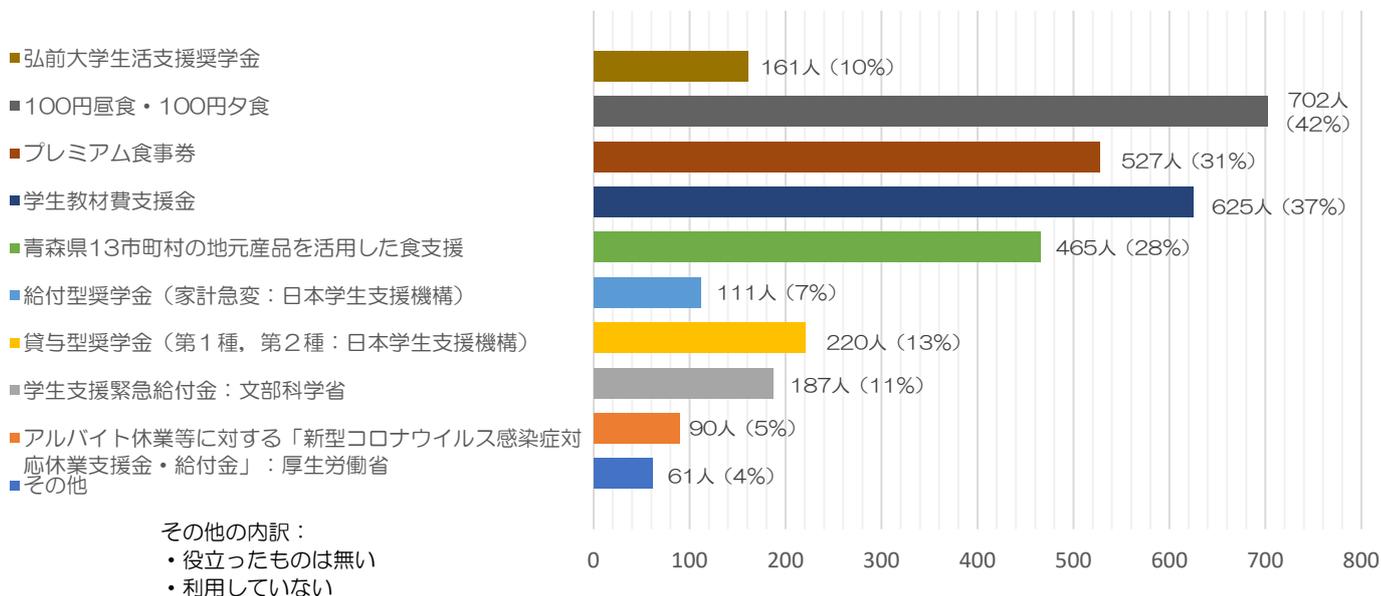


5. 新型コロナウイルスの感染拡大により、あなたの保護者（または学費支弁者）からの支援額は、令和2年9月時点と比較してどう変わりましたか。



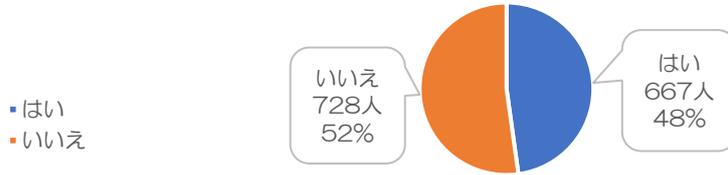
■ 大学等が行っている各種支援の利用状況についてお尋ねします。

6. 大学等が行っている支援のうち、経済状況の改善に役立ったものは何ですか。（複数選択可）

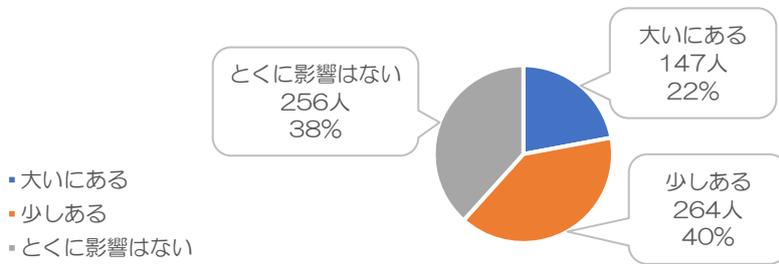


■ アルバイトの状況についてお尋ねします。

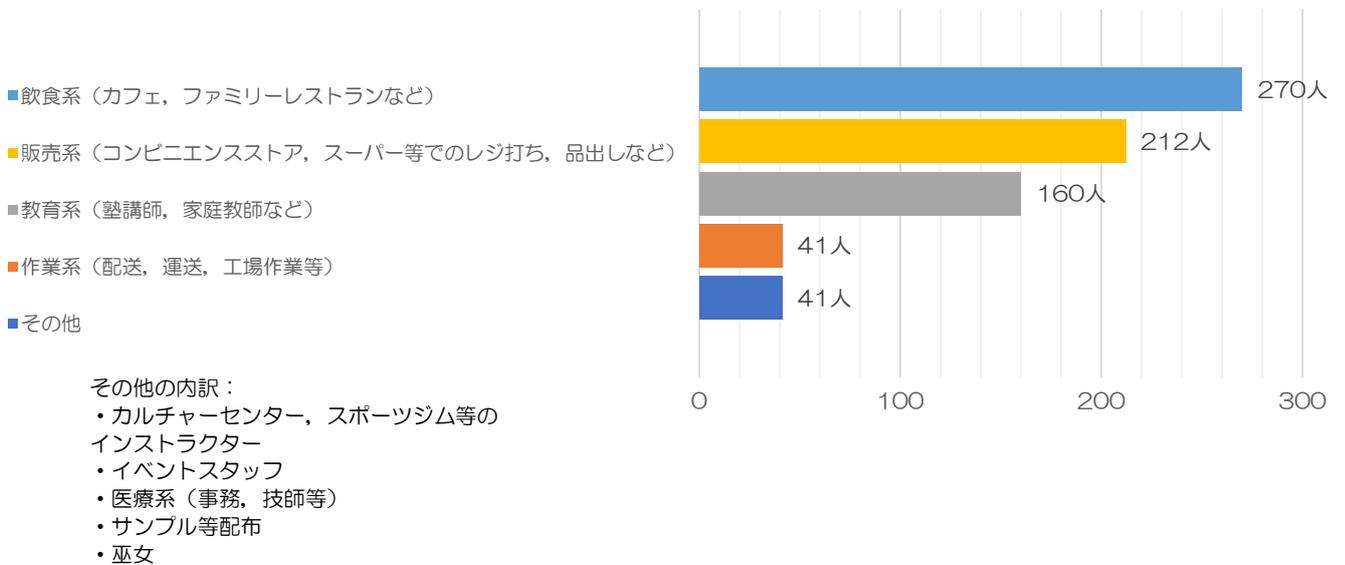
7. 現在、アルバイト（学内を除く）を行っていますか。



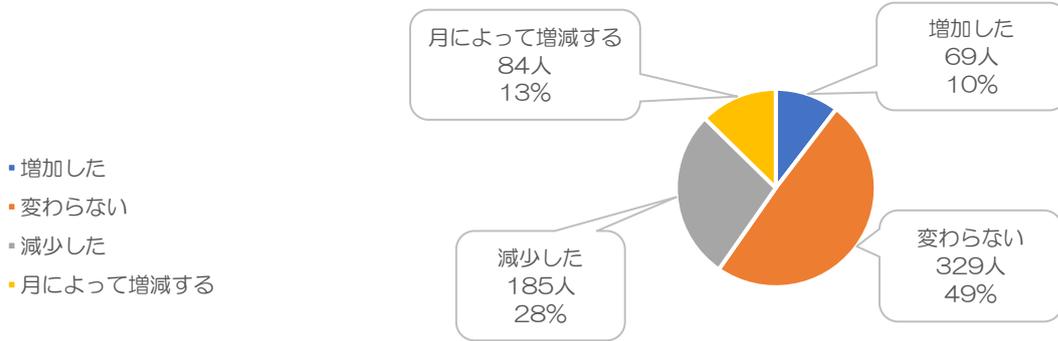
8. 問7で「1.はい」と答えられた方にお尋ねします。アルバイトに新型コロナウイルスの影響は現在もありますか。



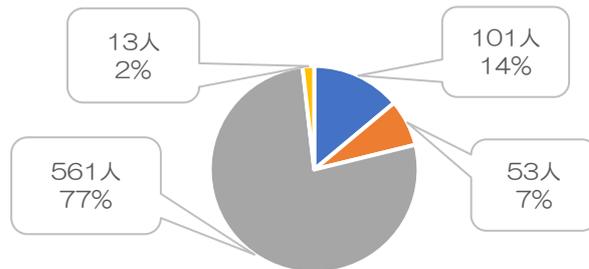
9. アルバイトをしている方に質問です。職種は何ですか。（複数回答可）



10. アルバイトの時間数や賃金は、令和2年9月時点と比較してどう変わりましたか。



11. 問7で「2.いいえ」と答えた方にお尋ねします。現在、アルバイトを行っていない理由は何ですか。以下の選択肢から最も該当する項目を一つ選んでください。



- 新型コロナウイルスの影響で辞めた
- 新型コロナウイルスの影響で辞めさせられ、次のアルバイトをしたいが働ける場所がない
- 新型コロナウイルスの感染拡大前からアルバイトはしていない
- 無回答